CASBEE® 名古屋　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度届出用マニュアル2016　使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要

建物名称	CAPRILLI 23	階数	地上4F
建設地	名東区亀の井二丁目5番、6番	構造	S造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	67 人
地域区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年1月　予定	評価の実施日	2026年9月21日
敷地面積	1,392 ㎡	作成者	
建築面積	609 ㎡	確認日	
延床面積	2,076 ㎡	確認者	

1-2 外観

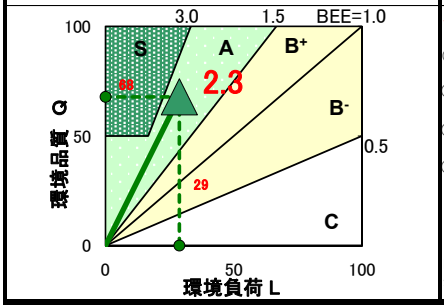
外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =2.3

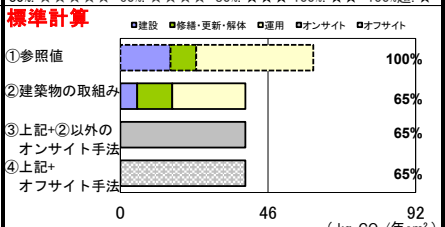
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

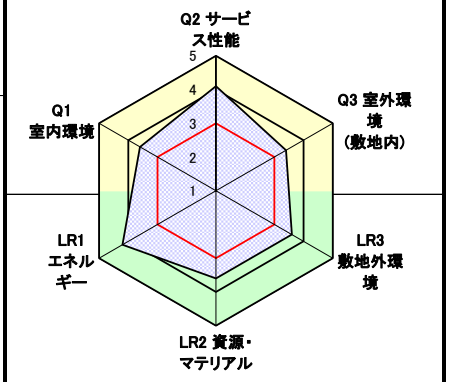
30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

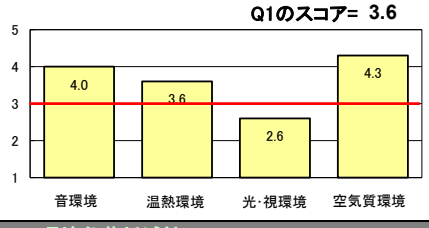
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



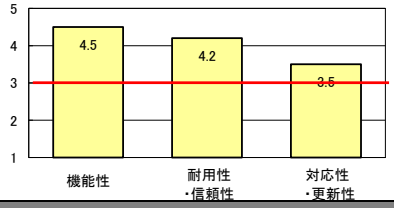
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.7

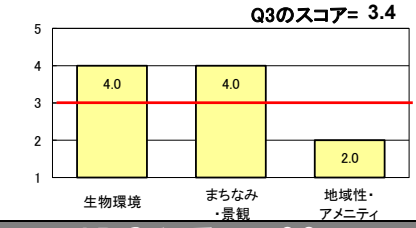
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.6



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 4.1

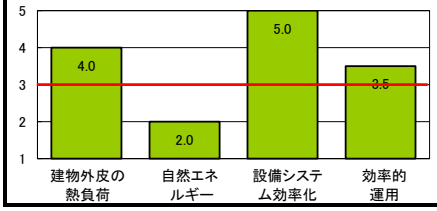


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 3.4

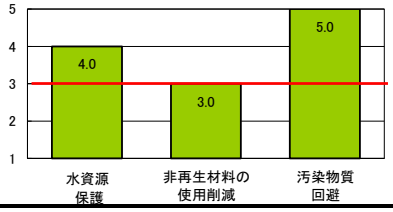


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.8

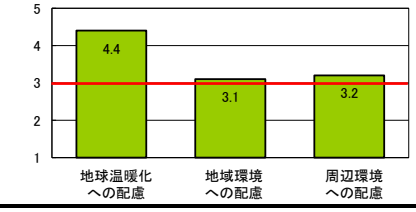
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.2



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.6



LR3 敷地外環境　LR3のスコア= 3.6



3 設計上の配慮事項

総合

鉄骨造4階建の共同住宅を建築するにあたり、隣地との高低差を考慮し最良の地盤高を設定し、周辺の住環境と調和した計画とし、建築物に関しては、ZEH Ready 基準に適合させた高断熱、高品質の計画とした。また、屋外に関しては敷地内の緑化に努めて環境にも配慮している。

その他

・低騒音型重機の採用。

Q1 室内環境

・室内の温熱・空気環境の快適性を確保し、健康的な執務環境を実現する。・高断熱サッシ：Low-Eガラスを採用し、温熱環境を改善。・遮音性能（界壁・床）を確保し、生活音の伝搬を低減。・LED照明の採用により省エネに配慮。

Q2 サービス性能

・利用者の利便性・安全性を高め、長期的に使いやすい建物とする。・メンテナンス性を考慮した設備配置。・防犯性向上のためのオートロックや防犯カメラ設置。・宅配ボックスの設置により利便性を向上。・バリアフリー設計

Q3 室外環境（敷地内）

・敷地内の緑化に努め、周辺環境への負荷を低減しヒートアイランドの抑制。
・駐輪場・駐車場の動線を安全に計画。

LR1 エネルギー

・建物のエネルギー消費を削減し、運用時の環境負荷を低減する。・外皮性能強化により一次エネルギー消費量を削減　（ZEH Ready 基準に適合）。・太陽光発電設備の設置。・高効率空調機器の導入。・高効率給湯器（エコジョーズ）の採用。

LR2 資源・マテリアル

・資源の有効利用と廃棄物削減を図る。
・長寿命化を考慮した部材の利用。
・リサイクル材を含む建材の採用。
・工事中の分別回収計画の徹底。

LR3 敷地外環境

・周辺環境への負荷（騒音・排水・熱負荷など）を最小限に抑える。
・低騒音型設備機器の採用。
・工事中の粉じん・騒音対策の徹底。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE名古屋　評価結果

重点項目スコア・結果シート

CAPRILLI 23

■使用評価マニュアル：　CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト：　CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目			評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策					4.1
LR1	エネルギー		4.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮		4.4	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.05	
2. 自然共生					3.2
Q3.1	生物環境の保全と創出		4.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮				
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.045	
3. 循環型社会					3.2
LR2.1	水資源保護		4.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減		3.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制　※2		2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策　評価点　＝ 4.1



2. 自然共生　評価点　＝ 3.2



3. 循環型社会　評価点　＝ 3.2



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{\text{（評価点×全体に対する重み）の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1　ここでは、Q3．3．1の評価する取組みのうち評価項目　I　2）地域性のある材料の使用　又は、Q3．2において評価する取組みのうち評価項目　4）地域性のある素材による良好な景観形成　のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3．3．1の全体に対する重みに0．2を乗じたものとしている。

※2　ここでは、LR3．2．3のうち、LR3．2．3．3　交通負荷抑制　を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3．2．3の評価点とは異なるものである。